

05s デジタル時代の業務の見える化(要件定義)入門

1. 研修要領

・募集定員	16名
・研修会場	NISA研修室（住所：〒850-0032 長崎市興善町4番6号）
・講師	福岡ソフトウェアセンター(FSC)講師：大橋 知子
・開催月日	2026年8月26日(水)・8月27日(木)
・実施時間・日数	9:30 ~ 17:30 (7時間/日)・2日間(14時間)
・受講料(税別)	94,560円
・教材料(税別)	6,000円

2. 対象者

DX推進担当者、DX推進担当の支援者デジタル推進を担う方
デジタル時代の要件定義をゼロから学びたい方
(プロジェクトマネジメントの基礎知識を有していることが望ましい)

3. カリキュラムの概要

デジタルの時代では、人を中心に考えて、オンラインで業務が完結します。この研修では、その本質的な考え方、本質的な違い、注意点を理解し、既存業務をスムーズにデジタルにシフトするための進め方を習得することができます。

デジタル時代の要件定義は、デジタルツールを導入することではなく、組織の一人一人が自分事として、自律的に仕事をする、変化を起こす、というマインドセットも合わせて、ワークショップを通じて楽しく学べるコースです。

4. カリキュラムの詳細

2日間(14時間)

	科目	時間	科目の内容
8 月 26 日	1. DX時代のビジネス価値(デジタル時代の仕事)	2.0h	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデルの変化とワークシフト ～ビジネス常識が変わってきた！ ・求められるスピード感・当たり前AI活用する時代
	2. 業務の見える化ではなく、人間中心に考える要件定義	2.5h	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルで完結するビジネスプロセスを人間中心に考える ・価値の見える化 ・全体から考える(全体最適) ・ユーザ主体のストーリー(要件)の定義～なぜから考える ・習慣化
	[実践ワークショップ] ビジネスの分析	2.5h	<ul style="list-style-type: none"> ・引出しワークショップのファシリテーションスキル ・ジャーニーマップから活用データのデザイン

	科目	時間	科目の内容
8 月 27 日	3. 変化に強いモデリング	2.0h	<ul style="list-style-type: none"> ・複数テーマの分析（優先度、変更管理） ・ビジネス分析とプロジェクトの関係 ・文書ではなく”データ”から本質的に必要なことを見える化 ～アプリの民主化・データの民主化 ・データは社外からも持ってくる ・テストファーストの考え方 ・機能の要件定義と非機能の要件定義 ～本当に使いやすいか？ (使いにくいのは生産性を落とす) ・自分たちでどこまでやるか、外に依頼するか (外部委託のポイント)
	4. 現場の変革	2.0h	<ul style="list-style-type: none"> ・作ると使う(開発と運用)はセット ・立ちはだかる壁 ・将来的にビジネス変化とともに必ず変更する ～マニュアルは、最初しか見ない ・他の業務への影響を分析する～後工程はお客様 ・ツールに頼る”落とし穴” ・プロジェクト企画へ
	[実践ワークショップ] ・サービスデザイン ・ストーリーのレビュー	3.0h	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス・ブループリントから、ユーザーストーリーへ
	計	14.0h	

※コース改善のため、予告なくカリキュラム及び教材を一部変更することがあります。

5. 使用教材

オリジナルテキスト

6. 到達目標

- ・デジタル化に際し、これからの業務のやり方の見える化ができるようになる。
- ・本質的にやりたいことを整理して、価値を表す要件定義ができるようになる。
- ・使う人(顧客)目線で、サービスのデザインできるようになる。

7. ITSSレベル